

文学部 1年 松山美咲

学生番号 011400742



今回のストラスブール研修では、初めてのヨーロッパへの渡航ということもあり、見るものどれもが新しいものばかりであった。

この研修中にストラスブールで学んだものとして、もっとも大きかったのは、言語はやはり実際に使ってこそ身に付くということであった。研修に行く前に、ある程度日本でフランス語を勉強したつもりではいたが、いざ現地へ行って話そうと思うと、言葉が出てこず上手く意思を伝えることができないことが何度もあった。ストラ

スブール大学での授業中、私たち日本人学生のクラスを受け持ってくださいました先生方は、どちらもフランス語を習得するにはたくさん機会を作って話すことが大切だと強調されていた。言語を学習する上では必ず言われることではあるが、このことを実感として得るには、自らの母語が通じる環境にいて勉強しているだけでは足りない面もあったかもしれない。フランス語しか通じない状況に置かれて初めて、自分がこんなにもフランス語を話すことができないということをはっきりと痛感した。

日本での自分の勉強を振り返ってみると、普段の授業で何か表現を覚えても、それをもう一度口に出して復習するという機会を自分で作ることはあまりなかった。たしかに一度きりでは覚えることは難しいはずであるし、それではせっかく習った表現も、教科書の中でしか見ない記号となってしまうそうである。

家庭訪問の際、お邪魔させていただいたご夫婦から、ぜひ会話でフランス語を使って、そして間違えなさいと言われた。間違えたところは頭に残りやすい。次に同じ間違いをしないためにも、新しいことを学ぶ時よりさらに熱心になる。私自身も、会話中にたどたどしいがフランス語で話した時に、直していただいた近接未来の文章はしっかり覚えることができた。

義務教育期間中ずっと習ってきたこともあり、私たちは海外ではつい英語だけに頼ってしまいがちであるが、必ずしもそれがいつでも通用するとは限らない。どこか海外へ行く

ならば、その土地で用いられている言語を話せるのに勝ることはないし、行く土地の言葉を話すことは、ある程度の礼儀でもある。言語は教科書だけのものではなく、実際にそれを用いて生活する人のいる、生きたものであるということを再確認させられた。

また、二つ目に学んだことも、同じく言語に関することである。もともと研修前に設定した、研修中の目標として、その土地の文化が、生活や風土と密接に関連しているところを見つけたいということを挙げていた。文化と一口に言ってもさまざまなかたちがあり、あまりに広義であるが、今回出会うことができた中で特に印象的だったのは、日常的なトラブルに関する比喩的な表現であった。

家庭訪問の日、アルザス地方の観光名所へ車で連れて行っていただいた帰り、私たちは高速道路で渋滞にはまった。日本でもよくあることだが、フランス語では渋滞をなんと言うのか質問したところ、ご主人がそれは **embouteillage** というのだと教えてくださった。この **embouteillage** という言葉だが、字面からも分かるように、ボトルという単語が表現の中に含まれている。説明してくださったところによると、この表現は「ボトルの首」を意味しているという。ワインのボトルは首が細くなっている。道路をワインボトルに見立てたとき、狭くなっている首のところで車の流れが滞る様子を表しているのだ。わが国にも外来語として「ボトルネック」という表現はあるが、それをフランスでは非常に身近な、誰にでも起こりうる日常的なシーンにおいて用いるという点が面白い。日本語に雨を呼び分けるさまざまな表現があるように、フランス語には、たとえば食材に関して細かな呼び分け方があることはよく知られている。私もそのことは聞き知っていたが、ワイン文化がまったく方面の異なる交通事情にまで顔を出すとは思ってもみなかったので、これを知ったときにはなんだか得をした気分になった。

フランスは誰もが知るワインの生産大国である。一步街から出ると、平野にはぶどう畑が広がっていたのがとても印象に残っているが、そうしたぶどう畑があるのは、その地方の気候や土壌と大きく関係している。かなり大雑把な見方であるが、周囲の不可避な環境がもたらした講義の文化が生活に影響を与え、さらにユニークな言語文化を再び形成することの一端を垣間見られたように感じる。



最後に、ストラスブールでというよりは研修全体を通して獲得できた、自主性についてである。今回の研修は、現地に向かうまで、また現地での行動に関して、自らどう動くかが重要になってくる場面が多くあった。私がこれまで経験してきたのは、すでにやることは決まっていて、周囲が用意してくれたものをこなすというプログラムや旅行であったので、こうした自分で手配したり計画を立てたりするプログラムは、慣れないが充実したものだと感じた。

現地では特に、いかに自分から動くかで充実度が変わることを実感した。研修中は、授業以外の時間は自由行動の時間が多く設けられていた。その時間を有意義に過ごすためには、やはり与えられるものを待つのではなく、自ら新しい発見を求めて行動を起こすことが必要であった。時には怖い思いをすることもあったが、それもストラスブールの姿を知るといふ意味では悪いことではなかったように思う。

すべて用意されたお仕着せのツアーももちろん楽しいが、今回こうして自分から動く余地の残されたプログラムに参加できたことは、私の中で、非常に大きな一つの経験になった。人に任せきりにするのではなく、自ら頭を悩ませ、試行錯誤しながら行動するからこそ得られる充実感や楽しみは、また格別であった。

以上、私は研修中のストラスブールにおいて、言語は実際に使ってこそ身に付くということ、言語がその国の生活と密接につながっていること、そして自ら動く自主性の重要性を学ぶことができた。今回の短期の留学を動機づけとして、ぜひいつかフランスへ長期の滞在をしたいと考えている。次回行くまでに、この研修を通して学んだことから実力を伸ばし、滞在を有意義なものにできるよう努力していく。

Les choses que m'étonnât

Premièrement, je me suis étonné qu'il y eût beaucoup des salons des coiffures à Strasbourg. J'ai regardé des tabacs, des boulangeries et des coiffures pendant j'ai promené. J'ai pu leux trouver partout où je serai allée. Est-ce que des française les font couper les cheveux ? Un jour j'ai posé une question à nos professeur avec des amis à moi. Mais, nos proffeseur a dit qu'il se trouvait étrange qu'il y a beaucoup des dentistes à Nagoya, aussi. Certes, je n'ai pensé comme ça. On n'avons conscidence de quelle établissements leurs villes ont, mais ce nous indique quelle caractères ils ont.

Deuxièmement, la tranquillité du dimanche m'étonné bien. La tranquillité est été plus grande que prévue. Même le site touristique de renomé, il n'y a eu pas beaucoup de monde. La plupart de des magasins sont été fermé. Au Japon, nous peut trouver des magasins ouverte n'importe quand. Nous peut faire du shopping avec nos amis, aller au karaoké, ou acheter des produits alimentaires pour le dîner quotidien. Parce que j'étais été habitué comme commodité, au debut, j'avait trouvé la tranquillité étrange. Pourtant je consents à l'idée de passer leux week-ends avec leux familles.

Troisièmement, j'ai admiré les equipements varies pour que des enfants peuvent jouer. Pendant nos séjour, j'ai regardé plusieurs places. Dans chaque places, il y avait des equipements, par exemple, un carrousel, une tasse à café, ou des objets de des animaux. On peuvent trouver des equipements comme des barres fixes, des balançoires, et des bascules dans des parcs japonais de même que les places françaises. Mais au Japon, les enlèvements des comme equipements avancent ces temps-ci. Les enlèvements avancent à cause de des plaintes qu'ils soient dangereux pour des enfants ; ils peuvent ses blesser dans l'accident. A mon avis, des enfants ne grandissent sainement sans des jeux en plein air. Nous ferions mieux de changer d'idée sur cette affaire.

Ce séjour est été le deux semaines repris de nouvelles découvertes. Je voudrais aller un jour en France encore une fois.